

平成26年度 糸魚川市体育部 活動報告

部長 佐藤 剛

1 研究主題

小学校「ボール運動」から中学校「球技」への発展のための工夫

2 研究の概要

糸魚川市教育研究会体育部会は小学校と中学校が一緒になって活動している。そして、本年度は中学校の授業公開が行われた。これは小学校の立場から見れば、小学校から中学校へと進学していく子どもたちの段階的な学びの発展、それぞれの段階での授業構成・指導技術で共通して大切することや工夫することを検討するよい機会となる。当会では過去2年間、小学校3年と5年の「ボール運動」の授業公開を行ってきた。そこで、中学校での授業公開を1年「球技」にすることで、先に述べた目的の達成を目指すことにした。

3 研究の実際

- (1) 日時 平成26年11月11日(火)
- (2) 会場 糸魚川市立糸魚川中学校
- (3) 指導者 糸魚川市立糸魚川中学校
教頭 百目鬼 弘道様
- (4) 授業 第1学年「バスケットボール」
- (5) 授業者 糸魚川中学校 藤原 弘生教諭、渡邊 勇太教諭
- (6) 参加者 糸魚川市教育研究会体育部員 36名

4 成果と課題

(1) 授業公開

生徒の具体的な活動の様子から、「全員でレイアップシュートができるようになるために、仲間に効果的なアドバイスを送る」を確かめた。また、授業者が単元全体で目指す目標「互いに協力し教え合いながら、進んで学習することができる」も、指導計画に従って進めることで、達成できることが予測できた。

(2) 研究協議

①小学校での授業構成と比べたときの共通点と相違点について話し合った。共通点として、ア)実際の練習やゲームといった運動量の確保にあてる時間を多くとること、その中で、イ)活動中に子ども同士が助言しあっていること、ウ)学習カードの活用は活動の振り返りとして両者でも有効であること、エ)集団行動の指導が適時行われていることがあげられた。一方相違点として、オ)体格差や男女別に分けるグループづくりなどの配慮があること、また段階的な指導の配慮事項として、カ)ミニバスケット用の一段低いリングが用意されていたことがあげられた。

②各中学校区での小・中の連携について話し合った。その後、各取組を紹介し合い、今後の取組の参考にすることができた。

(3) 指導

①体育の授業での学び合いのためにどんな配慮が必要なのかについて、第一に大切なのは、競ったり協力したりすることで運動に夢中にさせることであり、授業者が取り上げる運動の特性を十分吟味すること。

②第二は、授業で学んだことを体育・保健体育以外の様々な時間でも実践できるように、学校全体としての環境づくりを進めること。

③生涯スポーツに連続させるために、「分かる」だけでなく「できる」を実感させること。